

製造業の将来像を議論する  
大阪市など主催の「世界もの  
づくりサミット」は3日目の  
1日、大阪市内のホテルなど  
でフォーラムを開き、次世代  
航空機の部品受注を目指す関  
西の中小メーカーグループと  
発注側のボーイング社担当者  
が、次世代機に求められる技  
術を巡り意見交換した。

このグループは2004年  
に発足した「次世代型航空機  
部品供給ネットワーク」(O  
WO、24社)。08年夏に就航

## ものづくりサミット

# 次世代航空機「軽く」

このほか、フ  
ォーラムでは、  
団塊の世代の大  
量離職に伴う技

が予定される米ボーイング社  
の「787」向けなどのボル  
トや油圧部品などの受注を目  
指している。

ボーイング社プロダクトマ  
ーケティングディレクターの  
ジェームズ・ハース氏は、燃  
料費高騰などを背景に「次世  
代機は、燃費など効率を高め、  
最大積載量を増やす必要があ

る」とし、部品メーカーには  
「機体の軽量化」を要望。こ  
れに対し、OWO副会長で三  
陽鉄工(大阪市)の水戸祥登  
社長は「軽くて丈夫な複合材  
料を使った部品の開発に挑戦  
したい」と意欲を見せた。

術伝承が課題となる中、企業  
や学校との連携不足、教育方  
法の問題点などを指摘する意  
見が相次いだ。ものづくりサ  
ミット最終日の2日、最新ロ  
ボット展示会や中小企業の展  
示商談会などを開く。

部品メーカーと  
米ボーイング社  
**技術論交わす**